

港湾協力団体の活動と防災への取り組み ～高知県内における事例～

令和2年2月6日

四国地方整備局 港湾空港部

◆細島港における津波防災訓練



チリ共和国トーレス大使等と大野政務官



チリ共和国の防災関係者及び地元小学生による避難訓練

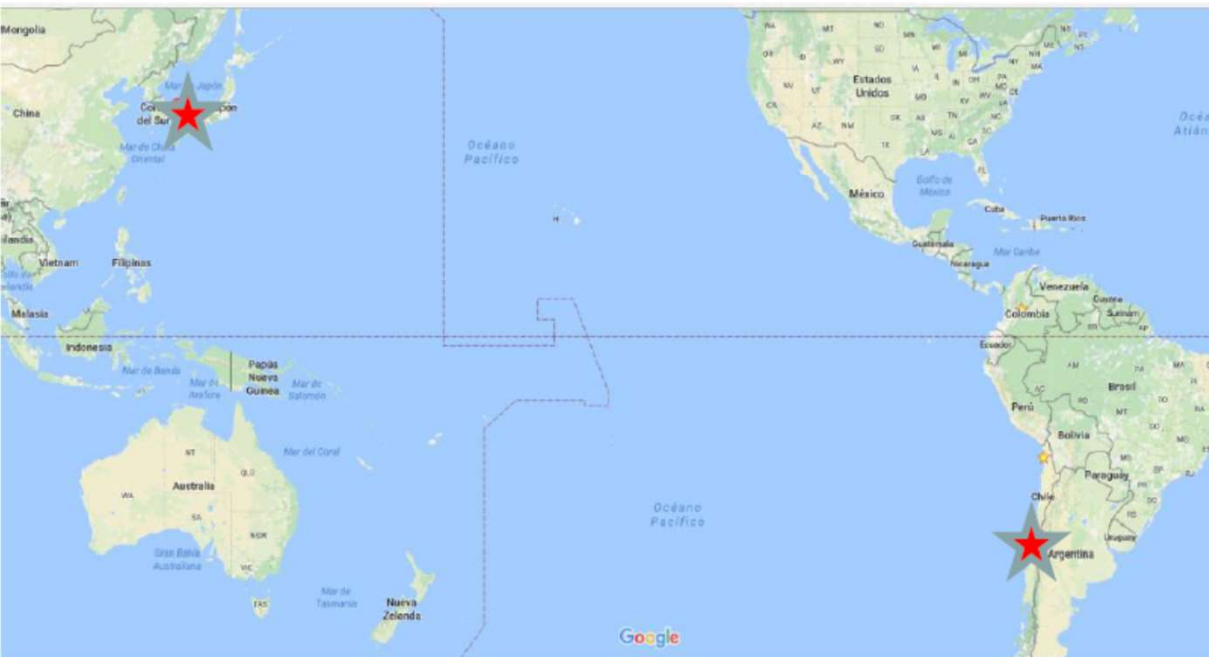
「世界津波の日」にあたっての 津波防災訓練

平成 28年 11/4 金 9:00 ~ 11:30
宮崎県日向市竹島町地先
(細島港〔白浜地区〕17号岸壁後背地等)

プログラム

主催：国土交通省・チリ共和国国家緊急対策室
共催：宮崎県・日向市・バルパライソ市

◆チリ共和国との合同津波防災訓練



Hososhima-----Valparaíso

出典：ONEMI(チリ共和国国家緊急対策室)講演資料



YO ME PREPARO, CHILE SE PREPARA



チリ共和国側のポスター

◆第2回 濱口梧陵国際賞授賞式及び記念講演会

2015年の「世界津波の日」制定を契機に、昨年創設された濱口梧陵国際賞（国土交通大臣賞）の授賞式及び記念講演会、レセプションが11月1日に開催された。同賞は津波防災をはじめとする沿岸防災技術分野で顕著な功績を挙げた方を表彰するものであり、受賞者には秋元副大臣より記念品が授与された。

- 開催日時 平成29年11月1日（水）
15:00～15:40 授賞式
15:50～17:20 記念講演会

- 受賞者 2名1団体（国外から2名、国内から1団体）

○Philip Li-Fan Liu シンガポール国立大学副学長兼特別教授

○Julio Kuroiwa ペルー国立工科大学名誉教授

- 黒潮町（高知県幡多郡） ※団体での受賞
・『世界津波の日』高校生サミットin黒潮を主催するとともに、官民一体でハード・ソフト両面からきめ細やかな対策に取り組み、住民の防災意識の向上に大きく貢献した。



◆黒潮町地区防災計画シンポジウム



黒潮町地区防災計画シンポジウムの開催状況
(大西市長から濱口梧陵国際賞受賞のご報告)

～我がこととして感じる手づくりの防災計画～ 第5回黒潮町地区防災計画シンポジウム

- と き: 令和元年11月2日(土) 13:30～16:30
- と ころ: 高知県立大方高等学校体育館



【プログラム】

- 13:30 開会
- 13:40 佐賀中学校の実践報告
- 14:00 大方高等学校の実践報告
- 14:20 熊井地区自主防災会の活動報告
- 14:40 入野本村地区自主防災会の活動報告
- 15:00 西日本豪雨の体験 ～犠牲者ゼロ集落の取り組み～
(愛媛県大洲市三善地区)
- 15:30 パネルディスカッション
- 16:30 閉会

一お問い合わせ先ー
〒789-1992
幡多郡黒潮町入野5893
黒潮役場情報防災課
☎0880-43-2188

パネルディスカッション

コーディネーター

パネリストⅠ

パネリストⅡ

パネリストⅢ

パネリストⅣ



京都大学防災研究所
巨大地震研究センター
センター長 矢野 克也



東京大学大学院
情報学環 特任教授
片田 敏孝



愛媛県大洲市
三善地区自治会
会長 窪田 亀一



大方高等学校
浦田 友香



黒潮町長
大西 勝也

主催: 黒潮町自主防災会連絡協議会 共催: 黒潮町・黒潮町教育委員会・黒潮町消防団 後援: 高知県

◆佐賀中学校で行っている5つの「日本一の防災活動」

（2）佐賀中学校で行っている防災活動

- 日本一の高さの津波避難タワーがある佐賀中学校では、**日本一の防災**を目指して活動しています
- 今回の発表では、**5つの視点**から防災活動を紹介します

- ①日本一「短い」防災活動
- ②日本一「長い」防災活動
- ③日本一「近い」防災活動
- ④日本一「遠い」防災活動
- ⑤日本一「新しい」防災活動

◆①日本一「短い」防災活動

（2）佐賀中学校で行っている防災活動

- ①日本一「短い」防災活動
 - 屋内避難訓練という黒潮町オリジナルの避難訓練に取り組んでいます
 - 寝室や居間から「玄関先まで」避難する津波避難訓練です



屋内避難訓練（玄関先まで）



（2）佐賀中学校で行っている防災活動

- ①日本一「短い」防災活動
 - 昨年度は、津波防災のみならず土砂防災にも対応するために「2階まで」避難する屋内避難訓練も行いました



屋内避難訓練（2階まで）



沿岸部の取り組みが、中山間部の取り組みに発展

◆②日本一「長い」防災活動

（2）佐賀中学校で行っている防災活動

- ②日本一「**長い**」防災活動
 - 一次避難場所から二次避難所まで避難する**二次避難訓練**を行いました
 - およそ4.5キロの山道**を通過して避難しました



◆③日本一「近い」防災活動

（2）佐賀中学校で行っている防災活動

- ③日本一「**近い**」防災活動
 - 沿岸部から中山間部までの全地区の要配慮者**を個別訪問する活動です
 - 過去の被災経験談や避難する上で不安なことなどを聞き取りました
 - 9月1日の一斉訓練では、**一緒に避難訓練に参加**してもらいました



（2）佐賀中学校で行っている防災活動

- ③日本一「**近い**」防災活動
 - 訓練参加率が、**約33%から約93%に**向上



◆④日本一「遠い」防災活動

（２）佐賀中学校で行っている防災活動

- ④日本一「**遠い**」防災活動
 - メキシコのエヴァサマノ中学校と合同で、遠地津波の訓練を行いました



（２）佐賀中学校で行っている防災活動

- ④日本一「**遠い**」防災活動
 - 今まで3回合同避難訓練を実施し、佐賀中学校の防災活動の成果が**メキシコでも根付く**ようになりました



◆⑤日本一「新しい」防災活動

（２）佐賀中学校で行っている防災活動

- ⑤日本一「**新しい**」防災活動
 - 地区の役員から、**臨時情報についての認知率が低い**という現状を聴取
 - 臨時情報についての解説ビデオを防災委員会で作成



（２）佐賀中学校で行っている防災活動

- ⑤日本一「**新しい**」防災活動



新しい災害情報を、中学生の視点でわかりやすく解説

町地区への提案

22 私たち**高校生**を頼ってください



私たち高校生も、避難所運営のお手伝いをします
8月7日（火曜）10時から、大方高校で避難所運営ゲームをします
ぜひみなさまも、ご参加ください

みなさまへのお願い①

- ▶地震の揺れがおさまってすぐに逃げる
ことが大切です。



**耐震・家具固定を
してください。**

みなさまへのお願い②

- ▶できるだけ高台の方へ逃げてください。



**大方高校へ避難して
来てください。**

みなさまへのお願い③

- ▶すぐに逃げるため
- ▶大方高校をめざしてもらうため



**大方高校に備蓄袋を置く
ことを考えてみて下さい。**

11月2日(土) 夜間津波避難訓練の内容

くんれん じかん 訓練時間	くんれん 訓練メニュー	くんれん ないよう 訓練内容
19:00	くんれん かいし 訓練開始	じしん はっせいをお知らせする緊急地震速報が町内放送及び告知端末から鳴ります。
19:00から	シェイクアウト訓練 (身を守る訓練) 	<p>緊急地震速報が鳴ったら、大きな揺れから身を守る行動を2分間行います。</p> <div style="border: 2px dashed red; padding: 5px; text-align: center;"> <p>安全行動 3つの動作</p> <p>まず低く ▶ 頭を守り ▶ 動かない</p> <p>その後、安全の確認をします</p> </div>
シェイクアウト訓練後から	津波浸水内地域 	<p>安全を確認しながら避難場所へ避難します。</p> <p>① 交通ルールを守り、安全を最優先に考え、避難場所へ避難して下さい。</p> <p>② 代表者が災害対策本部へ避難状況の報告をして下さい。</p>
	津波浸水外地域 	<p>各地区の避難所へ避難し、避難所の開設の準備を行います。</p> <p>① 2～3名が到着したら建物外部の損壊状況を目視で確認。</p> <p>② 避難所の入口を開け避難者を受け入れる。</p> <p>③ 代表者が開設状況を災害対策本部へ報告。</p>
20:00頃まで (予定)	くんれん しゅうりよう 訓練終了	<p>訓練が終了した地域から解散して下さい。</p> <p>※ 帰る際も避難時と同様に安全には十分注意して行動して下さい。</p>



津波避難訓練状況 (19:30頃)



避難所開設訓練状況

◆ (株) 黒潮町缶詰製作所 (第三セクター)

缶詰を中心とした防災用品の製造販売、小ロットでの缶詰受託製造など



「おいしさ」と「やさしさ」を
大切にした食品づくりを基本に。



東京大学 片田教授のコメントの紹介

黒潮町における津波防災の取り組みは、もはや防災という枠組みを超えている。
地域の取り組みとして完全に定着しており、それが究極的な姿だと思っている。



海岸防災の取り組みが地域コミュニティの維持と一体化

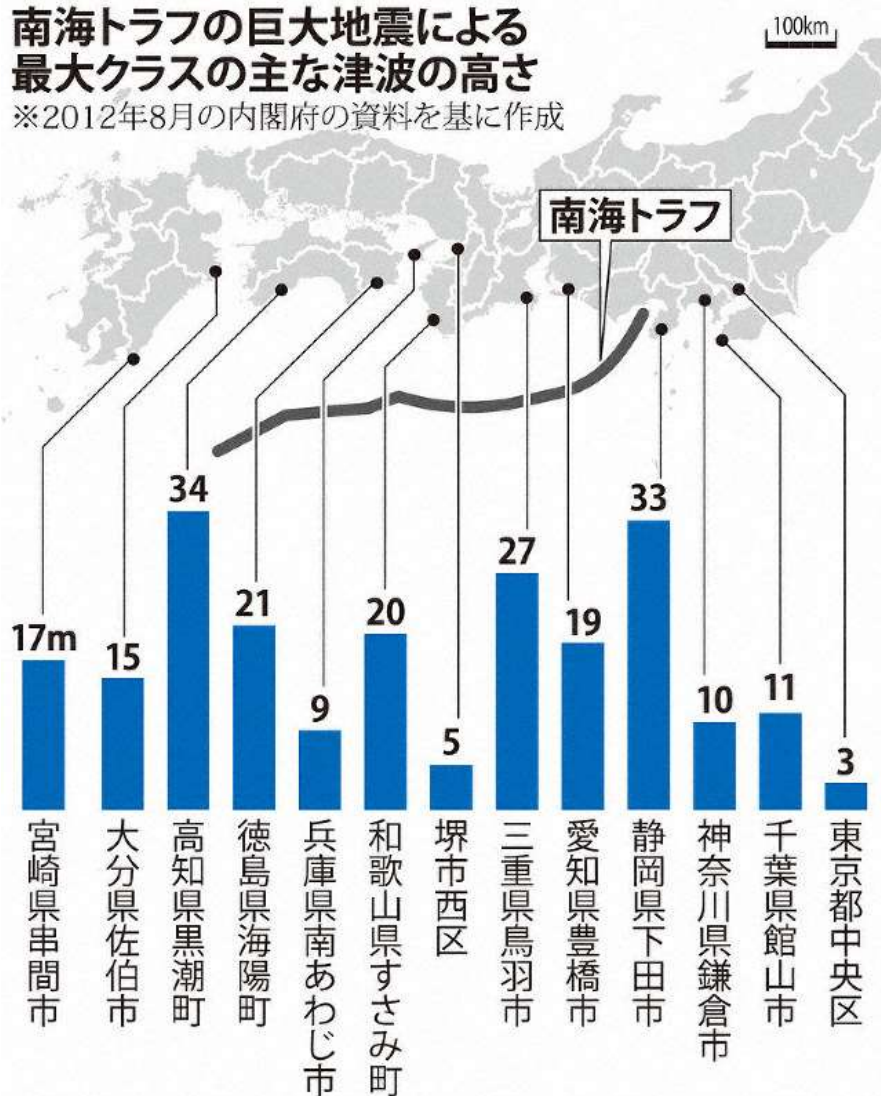


行政からも様々なアプローチができるのではないか

南海トラフ巨大地震の津波想定

南海トラフの巨大地震による最大クラスの主な津波の高さ

※2012年8月の内閣府の資料を基に作成



出典: 内閣府HPをもとに国土交通省作成

南海トラフ沿いの地域における大規模地震の発生状況

✓ 海岸協力団体とは

- 海岸において活動する民間の法人・団体を海岸協力団体として指定することにより、活動の支援を行うもの
- 海岸協力団体の指定により、海岸管理のパートナーとして地域に根ざした民間による活動が促進され、地域の実情に応じた多岐にわたる海岸管理の充実につながることを期待

海岸協力団体の活動のイメージ



海岸環境の維持（清掃活動）



海岸植生の保護



希少種保護
（ウミガメ卵の保護）



調査研究



環境教育活動

海岸法 第23条の4（海岸協力団体の業務）

海岸協力団体は、当該海岸協力団体を指定した海岸管理者が管理する海岸保全区域について、次に掲げる業務を行うものとする。

- 一 海岸管理者に協力して、海岸保全施設等に関する工事又は海岸保全施設等の維持を行うこと。
- 二 海岸保全区域の管理に関する情報又は資料を収集し、及び提供すること。
- 三 海岸保全区域の管理に関する調査研究を行うこと。
- 四 海岸保全区域の管理に関する知識の普及及び啓発を行うこと。
- 五 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

海岸管理者（都道府県等）

申請

指定

法人または団体（NPO等）

自発的活動

✓ 海岸協力団体に指定されると？

- 海岸協力団体に指定されることにより、その活動に際し占用等の許可の手続きが簡素化される
- 国や海岸管理者から必要な情報提供や助言等を受けることができるとともに、法律上位置付けられた団体となることで社会的信用が向上し、円滑な活動につながることを期待される

海岸協力団体に指定されるには？

- 指定を希望する団体からの申請に基づき、海岸管理者が審査をし、海岸協力団体として指定することができる

環境保全に対する会員の意識が高まった

清掃活動への参加者が増加した

継続して海岸で活動している団体であればだれでも申請できます

指定された団体のこえ

活動の様子が新聞やテレビ等で紹介された

行政からの支援が得られやすくなった

地元自治体との打ち合わせが円滑に進むようになった

活動に対する地域の評価が高まった

◆ 指定に向けた取組を本格スタート <H29.8>
高知港海岸種崎（外縁）地区の整備をH28dに着手。翌29dからの現地着工を契機に、同地区内における海岸協力団体の指定に向けた取組を始動。

◆ 候補団体の掘り起こし作業 <H29.8~H30.8>
直轄施工区域である種崎（外縁）地区には、種崎海水浴場など海浜地が存在。海岸清掃を行っている地元団体を中心に、直轄事務所がヒアリング。

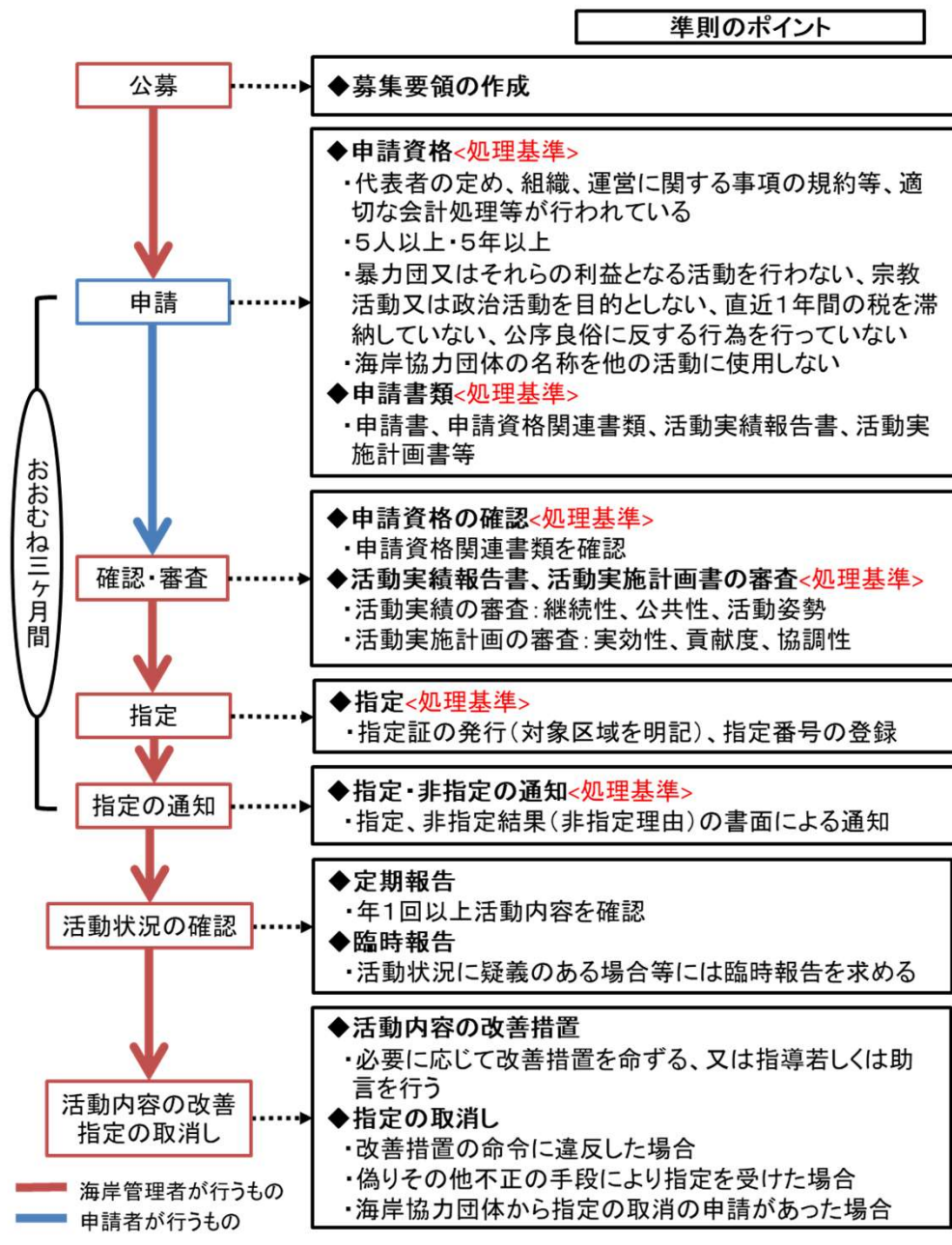
◆ 海岸協力団体の公募開始 <H30.10.5~30>
直轄事務所ホームページにて募集要項を掲載。

◆ 指定委員会の開催 <H30.11.12>
指定委員4名（学識経験者2名・行政関係者2名）により申請団体の審査内容にかかる妥当性確認。

◆ 指定証交付 <H31.1.31>
2団体の代表者に指定証を交付。交付式開催に併せて、両団体との今後に向けた意見交換を実施。

(参考)

海岸協力団体の指定フロー

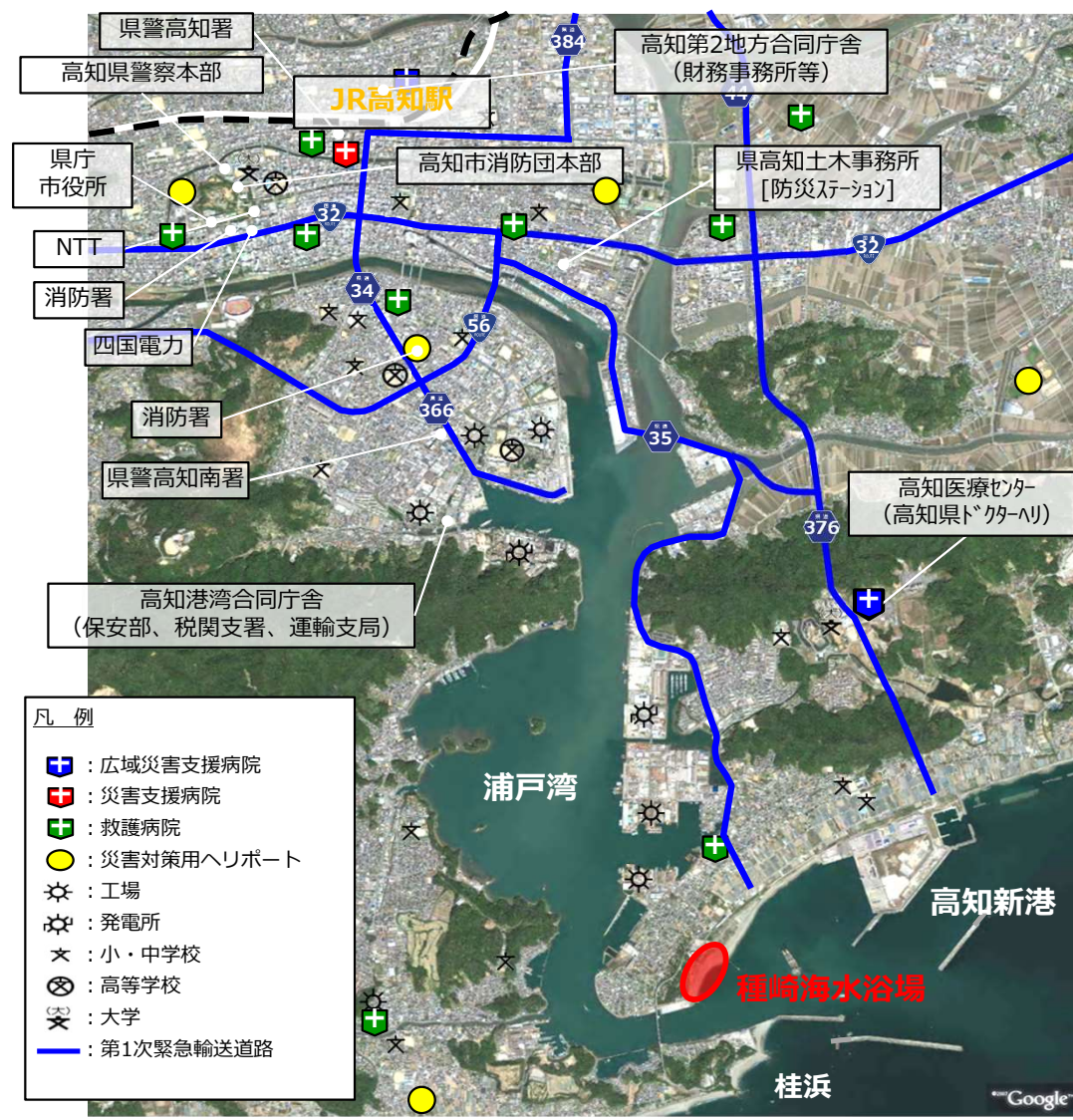


【参考】高知港海岸の周辺状況

【周辺状況】

高知港海岸は浦戸湾を囲むように配置されており、湾奥部には高知県庁や高知市役所等の行政機能や都市機能が集積する高知市の中心市街地が広がっている（*高知市には県全体の約47%にあたる約33万の人口が集中している。）。また、臨海部は石油備蓄基地や製造・造船等の工場が多く立地している。

高知県広域図



約8 km

18

【事業の目的】

浦戸湾背後には約700haにわたるゼロメートル地帯が広がっており、海岸保全施設の老朽化等により地震・津波に対して脆弱な状況にある。南海トラフを震源とする地震が発生した場合、広域地盤沈下が発生するとともに、液状化による堤防等の倒壊・沈下が想定され、その後の津波による浸水被害は広範囲かつ長期的なものとなることが予想される。このため、南海トラフ地震・津波に備えるため、高知港海岸においては、『三重防護』の方針により海岸保全施設を整備することで、地域の安全・安心を守ることにしている。

【事業の概要】

○整備内容（直轄事業のみ）

第1ライン：港湾施設

第2ライン：海岸保全施設

津波防波堤(230m)、水門(1基)、陸閘(1基)、
堤防(改良)(2,928m)、護岸(改良)(4,809m)、
胸壁(改良)(1,628m)、陸閘(改良)(12基)

第3ライン：海岸保全施設

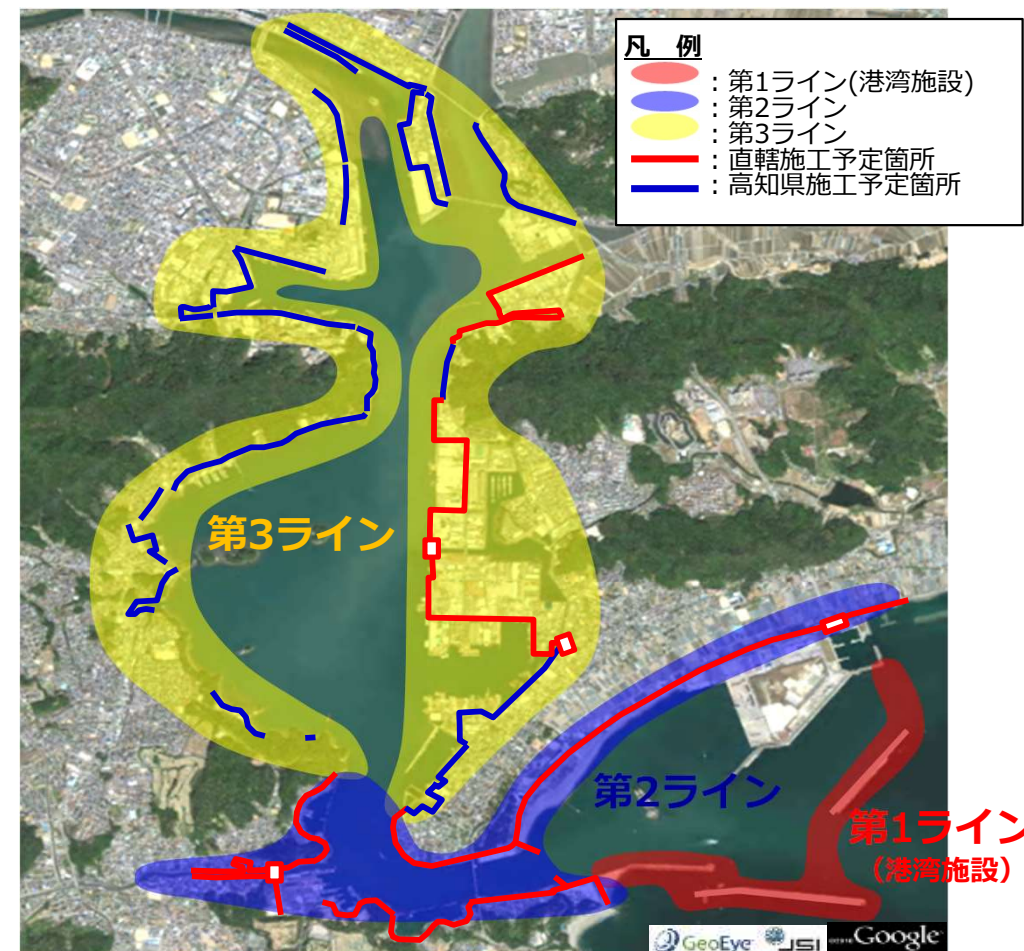
水門(2基)、護岸(改良)(2,544m)、
胸壁(改良)(2,325m)、陸閘(改良)(37基)

○事業期間：平成28年度～令和13年度

*進捗率9.6%（平成30年度末）

○総事業費：600億円（うち、直轄事業は350億円）

*第一ラインは含まない



高知港海岸における三重防護のイメージ

■ 指定団体活動場所（種崎海水浴場）の現状

指定団体の主な活動場所である種崎海水浴場背後の種崎千松公園側に、既存海岸保全施設があり、前面の海辺と一体となった親水性を考慮した施設となっている。



特定非営利活動法人 環境の杜こうち（高知県高知市）

1. 概要

(1) 沿革及び活動目的

当該法人設立以前より市民有志グループによる活動として、毎年定期的に環境活動を実施してきており、平成18年3月に、環境活動団体、行政、学校、企業、地域の環境活動のネットワークを築き、県民に対して、環境活動に対する支援や環境学習の推進に関する事業、地球温暖化防止に向けた活動の支援、環境に関する情報の発信、環境政策の研究と提案などを行うことで、循環型社会の形成に寄与することを目的に設立。

(2) 構成

会員数 94名

内訳：正会員63（個人47・団体16）

活動会員27（個人20・団体7）

賛助会員4（団体4）

(3) 主な活動場所

高知港海岸（種崎海水浴場）

海岸協力団体指定セレモニー（H31.4月）



2. 主な活動

(1) 希少動植物の調査等、海岸保全区域の管理に関する調査研究

- ・ビーチクリーンアップ活動による海ゴミ調査を実施
- ・平成18年4月から活動開始。毎年春と秋に実施（毎回、約10～20名が参加）

(2) 海岸の安全管理、環境教育等、海岸保全区域の管理にかかる知識の普及・啓発

- ・海ゴミの調査結果の市民への広報、啓発活動や勉強会を実施
- ・ビーチクリーンアップ活動後の環境問題啓発イベントや出前授業の実施
- ・平成18年4月から実施（各回、約1～5名を派遣）

(3) 調査研究時に行う調査箇所への清掃活動等、前各号に付帯する活動

- ・上記海ゴミ調査のため、市民参加による漂着ゴミの清掃を実施
- ・平成18年4月から実施（再掲）。毎年春と秋に種崎海水浴場で実施（再掲）。



←海岸清掃のチラシ



海ゴミ調査結果の公表



3. その他

(1) その他の活動

- ・こうち環境博（主催：環境の杜こうち）において、海ごみ調査結果の公表やパネル展示を実施。
- ・ビーチクリーンアップ全国事務局（一般社団法人JEAN）への上記調査結果データの提供を実施。

(2) 主な表彰歴

H30.7 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰
（四国地方整備局長表彰）

<指定にあたっての団体からのコメント>

- ・海ごみの調査結果を社会に提供することで、みなさんが環境について考えるきっかけになればよい。
- ・清掃活動を誰でも気軽に参加できることととらえて、緩やかに長く続けることが大切。
- ・三里地区地域安全推進協議会とも協力して取り組んでいきたい。



ビーチクリーンアップ活動（種崎海水浴場）

三里地区地域安全推進協議会（高知県高知市）

1. 概要

(1) 沿革及び活動目的

地域安全に係りのある諸機関、団体と連携を強化し、地域の安全対策を効果的に推進し、もって地域安全意識の普及高揚等を図ることを目的に平成9年9月に設立。

(2) 構成

会員30名（個人）

(3) 主な活動場所

高知港海岸（種崎海水浴場）

2. 主な活動

(1) 高知港海岸（種崎海水浴場）の清掃活動

- ・平成9年7月から実施（22年間）
- ・毎年7月に実施（毎回、地域住民を含めて約300名以上が参加）

海岸協力団体指定証交付式(H31.1月)



3. その他

(1) その他の活動

- ・ 防犯、少年問題等に関する懇話会の開催及び広報資料の配付掲示
- ・ 地域安全推進の家としての必要な知識の研修や地域安全推進活動への協力

(2) 主な表彰歴

H28.7 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰
(四国地方整備局長表彰)

<指定にあたっての団体からのコメント>

- ・ 毎年20以上の企業、団体に協力頂き、300人以上の参加者がある活動であり、地元の人たちで続けているのが大切。
- ・ 高知港海岸の種崎海水浴場をより多くの方々に安全に利用して頂けるよう、今後も貢献していく。



◆ 指定セレモニー及び海岸清掃等活動イベントの実施



指定証のお披露目

平成31年4月20日に、指定団体の主な活動場所である「種崎海水浴場」にて、指定セレモニーを挙行。当日は、指定にご尽力頂いた下記の方々にもご列席いただいた。

また、同日は指定2団体、高知県及び四国地整の関係者が指定後初めて連携し、「海岸清掃」「回収ゴミの分析結果公表」、「海岸の安全利用点検」を実施し、同海岸のよりよい維持管理の第一歩となる共同活動を実施した。

<主な出席者>

磯部 雅彦 高知工科大学 学長

黒笹 慈幾 高知大学 地域協働学部 客員教授

中谷 元 衆議院議員



海岸清掃（指定団体）



回収ゴミの分析結果公表（指定団体）



海岸の安全点検（四国地整）

高知工科大学 磯部学長のコメントのご紹介

これまで海岸事業の防災面については、防護効果や建設費用からB/Cを算出して整備効果を説明してきた。一方、平成11年の海岸法改正以降、目的に追加された環境や利用については効果を換算しにくいがために整備効果として十分認識されていないところがある。今回の海岸協力団体の活動を契機に、環境や利用の評価に繋がることを期待。

老朽化対策という意味では、日本全国で約1万kmの施設延長を維持するためには、施設の耐用年数を50年とすれば年間200km更新しなければならず、大変な課題。これを海岸協力団体のように色々な方々の目を通してうまくメンテナンスをすることで、海岸の保全の質を落とさず、上げていくことができると良い。

東日本大震災以降、L1津波は守るがL2津波は守れないというコンセプトで施設整備を進めることとなった。このため、新たに住民が避難することが前提の整備となっている。しかし、いくら堤防や避難タワーをつくっても、住民自身が避難行動を起こさなければ意味がなく、日頃から住民が海岸管理に積極的に参加するということが大変重要。このため、海岸協力団体制度が住民の意識向上のための1つのステップとなることを期待。

海岸協力団体の指定による効果

◆海岸協力団体として指定された2団体は、指定前においては連携した活動はなかったが、今回の指定を契機にそれぞれが行ってきた取組のコラボレーションを図っている。

具体的には、今年度に入り以下の共同活動が行われ、各団体がこれまで培ってきた特色の相乗効果が発揮されている。今後は、地元自治体や当局とも連携を深め、官民による適切な海岸の維持管理に資する、さらなる活動の展開が期待されている。

- ✓ 春のビーチクリーンアップ活動（平成31年4月実施）
- ✓ 秋のビーチクリーンアップ活動（令和元年10月実施）

4月20日(土)報道特集—テレビ高知(5時44分～5時45分)

<p>①海辺を安全に利用してもらおうとGW前に高知市で海岸の安全点検が行われた。</p>	<p>②国交省の職員らは砂浜にポールを突き刺し、陥没など危険が無いか確認した。</p>	<p>③NPO法人による浜辺のゴミの調査も行われた。</p>
<p>④どんなゴミがどれくらい落ちているか調査結果が集計され、今後の海岸の美化活動に活かされる。</p>	<p>⑤「素材はプラスチック類のゴミが多い。ポイ捨てばかりではなく、知らない間に流出するゴミがたくさんあるので、防ぐようにしたい」</p>	<p>⑥調査結果は明日、香美市で開かれる地球環境について考えるイベントで報告される。</p>

地元テレビ局による取材・報道状況

海辺清掃ごみ調査

高知市種崎 タイヤや注射器も

海水浴場のごみを拾う家族連れら(高知市種崎)

海辺を清掃しながら「海水浴場で行われ、環境保護のエリアを集めた春のビーチクリーンアップ2019」に汗を流した。NPO法人「環境の」が20日、高知市の種崎「村」の主催で、

地元の「三里地区地域安全推進協議会」と共に実施した。ビーチクリーンアップは世界規模で行われる海洋保護活動で、集めたゴミのデータは米国の環境保護団体に送られる。参加者は海岸に打ち上げられたプラスチックの破片やたばこの吸い殻などを拾い、ゴミを45種類に分類したデータシートに記入。中にはタイヤや注射器などもあり、計10.1kgのごみが集められた。

次女の種崎さん(11)と参加した岩本やいさん(45)＝高知市高村町目黒＝は「自分たちの生活から出るゴミが海岸に打ち上がっていることを子どもたちにも知ってもらいたい」と話していた。(谷沢 文彦)

地元新聞社による取材・報道状況 28

「海岸協力団体制度」も
ツールの1つに

海岸が、防災や環境美化などの地域活動のフィールドとなる

防災や環境美化に係る活動が、地域コミュニティの維持に貢献

**海岸防災や海岸環境美化の取り組みが
地域コミュニティの維持と一体化**